

1 評価報告概要表

全体を通して(特に良いと思われる点)	
<p>「ほっと」一息つけ癒される玄関まわりで、木製の引き戸を開けると季節感あふれる心づかいがあり、和風の木造を基調とし、利用者に安らぎや温かさや馴染みのある生活空間が作られている。一人ひとりの表情からうかがえる安心感・安堵感は、日々の職員全員の暖かいケアの賜物である。随所にきめ細やかな配慮に出あえた。常に傾聴・受容・共感を基本として、一人ひとりの尊厳を保ち、その人らしい役割が選択できるようサポートしている。利用者と家族・スタッフ・地域の人たちと共に生活を築き、生きがいのある人生と一緒に過ごす「共耕共遊」という基本理念実現のため、7月には「あんど公園」が落成した。職員全員がいろいろな夢を膨らませ、一歩一歩進んでいっている。</p>	
分野	特記事項(特に改善を要すると思われる点)
I	<p>「共耕共遊」という理念のもと具体的・明確に実践されているケアサービスの内容が、地域に理解され、確実に浸透されていくような取り組みを職員全員が一丸となって推進し、啓発・広報していくことが望まれる。</p>
運営理念	
II	<p>居室に生活用品、装飾品、思い出の品等の持ち込みはされているが、家具についての持込が少ない。利用者が安らぎを得るような使い慣れた馴染みの古いものが環境づくりに欠かせないことを家族に理解してもらい、協力を求める働きかけが望まれる。一人ひとりについて、その人らしい環境づくりを職員が利用者と一緒にやっていくことを期待したい。</p>
生活空間づくり	
III	<p>認知症であっても本人らしさを継続しながら安心して力を発揮してもらうためには、介護計画の中に本人及び家族の声を最大限に反映していくことが望まれる。高齢に加え、認知症のために予防策を講じていても緊急事態が発生しやすい。すべての職員が応急手当や処置に関するレベルアップのために訓練を定期的に重ねることが望まれる。感染症マニュアルはあるが、感染症に対する具体的な予防策の勉強会や実習の機会が設けられていくことを期待したい。</p>
ケアサービス	
IV	<p>地域の人たちが遊びに来てくれたり、立ち寄ってくれたりするようにと願い、「あんど公園」がホームの隣に落成した。この公園が、今後、交流の幅を広げる良き媒体となることを期待している。ホームの特性をアピールし、地域に還元されることが望まれる。成年後見制度は、ホーム全体そして家族と共に学習し、必要に応じて利用できることが望ましい。職員がケアの習熟度・体験の段階に応じた継続的な研修が受けられる機会を作ることが望まれる。</p>
運営体制	
V	<p>職員が少なくなる夜間の防火対策や更なる地域との連携体制の確保が求められる。</p>
その他	

分野・領域	項目数	「できている」項目数
I 運営理念		
① 運営理念	4項目	3
II 生活空間づくり		
② 家庭的な生活環境づくり	4項目	3
③ 心身の状態に合わせた生活空間づくり	6項目	6
III ケアサービス		
④ ケアマネジメント	7項目	5
⑤ 介護の基本の実行	8項目	7
⑥ 日常生活行為の支援	10項目	9
⑦ 生活支援	2項目	2
⑧ 医療・健康支援	9項目	7
⑨ 地域生活	1項目	1
⑩ 家族との交流支援	1項目	1
IV 運営体制		
⑪ 内部の運営体制	11項目	9
⑫ 情報・相談・苦情	2項目	2
⑬ ホームと家族との交流	3項目	3
⑭ ホームと地域との交流	4項目	1
V その他		
⑮ 火災・地震等の災害への対応	1項目	0

2 評価報告書

項目番号	項目	できている	要改善	評価不能	評価理由 (優れている点や改善すべき点等、評価の根拠)	改善方策等
外部	自己					
	I 運営理念					
	1. 運営理念の明確化					
1	1	○			運営理念の「共耕共遊の里」は開所時、代表者・管理者が考えたものである。理念に基づく具体的な内容が、職員に浸透していくようミーティングや申し送り時等を利用して話し合い、職員もよく理解し、ケアに活かしている。	
2	3	○			玄関横の掲示板に、はっきりした字で色彩よく、見やすい高さに掲示されている。家族をはじめ利用者へ丁寧に説明している。	
3	4	○			重要事項説明書・契約書に分かりやすく権利・義務が記載されており、同意も得ている。誠実に責任をもって行うことを誓っている。	
	2. 運営理念の啓発					
4	5	○			平成13年1月より「あんどだより」を月1回作成している。近隣の関係機関に配布し、ホームの様子を積極的に知らせている。 “あんど公園”を媒体に地域の方と交流を図り、理解を深め、ホームを応援してくれる人を増やしていくことが大切である。	運営理念は、再度、理解を深め、広めていくよう工夫することが望まれる。完成した“あんど公園”の今後の活用を期待したい。
①運営理念 4項目中 計		3	1	0		
	II 生活空間づくり					
	1. 家庭的な生活空間づくり					
5	6	○			ホームの目印となる入口の大きな表札は、柔らかいはっきりした字体で書かれ、見やすい位置に掲示されている。「ほっと」一息つける癒される玄関まわりで、木製の引き戸を開けると季節感あふれる心づかいがある。代表者自らが、月に1回模様替えをしている。	
6	7	○			和風で木造を基調とし、利用者にとって安らぎと温かさや馴染みある生活空間が作られている。飾られている額からも代表のやさしさが伝わってくる。	
7	8	○			ゆったりと外の景色がよく見える場所に、畳ベンチがある。利用者のお気に入りの場所となっている。3・4人が座っておしゃべりできる心地よいスペースが数か所設けられている。	

項目番号		項目	できて いる	要 改善	評価 不能	評価理由 (優れている点や改善すべき点等、評価の根拠)	改善方策等
外部	自己						
8	9	○利用者一人ひとりにあわせた居室の環境づくり 居室には、使い慣れた家具や生活用品、装飾品等が持ち込まれ、安心して過ごせる場所となっている。		○		ホームは、より一層家族に協力・理解を求める働きかけをし、利用者の喜ばれる物品の持ち込みに努力していきたいと強く思っている。	一人ひとりについてその人らしい環境づくりを職員が利用者と一緒に作っていくことを期待したい。
②家庭的な生活環境づくり 4項目中 計			3	1	0		
2. 心身の状態にあわせた生活空間づくり							
9	11	○身体機能の低下を補う配慮 利用者の身体機能の低下にあわせて、安全かつできるだけ自立した生活を送れるようにするための設備や工夫がある。(すべり止めや要所への手すり等の設置、浴槽・便座・流し台等の使い勝手の工夫、物干し等の高さの調節等)		○		立ち上がり時に便利なL字手すりを設置し、手すりの高さは、身体状態の変化にあわせ細かなところまで配慮されている。玄関入口にはなだらかなスロープがある。室内から広いデッキに出る段差には段差解消板を使用し、車いすの利用者も安心して過せるよう造作している。	
10	13	○場所間違い等の防止策 職員は、利用者一人ひとりがホーム内の場所が分かるかを把握しており、家庭的な雰囲気をこわさずに、場所の間違いや分からないことでの混乱を防ぐための工夫をこらしている。(トイレや部屋の目印等)		○		居室入口に大きめの表札が掛けられ、見やすい字体で明記され、ほどよい目線の高さになっている。暖簾も一人ひとり個性的で、場所間違いの不安な気持ちが解消されている。	
11	14	○音の大きさや光の強さに対する配慮 利用者が落ち着いて暮らせるように、音の大きさや光の強さに配慮している。(テレビ、職員の会話のトーン、照明の強度、まぶしさ、日射し等)		○		東側の大きな窓から、明るい光が差し込んでくる。陽射しが強い時は、よしずをうまく利用している。テレビの音量は適切であり、職員の口調も落ちついている。	
12	15	○換気・空調の配慮 気になる臭いや空気のだよみがないように、換気を適宜行っている。また、冷暖房の温度調節は、冷やし過ぎや暖め過ぎがないように適切に行っている。		○		1日2回(10時と15時)空気の入れ換え、空気がよどまないよう配慮している。室温調整は、こまめに行っている。温度計はさりげなく置かれている。	
13	17	○時の見当識への配慮 見やすく、馴染みやすい時計や暦を、目につくところに設置している。		○		誰の目にも止まりやすい位置に振り子の時計と日めくりカレンダーが掛けられている。手づくりのカレンダーも掲示されている。ホームからの眺めは季節の移り代わりを感じさせてくれる。木々や季節の花咲く静かで自然豊かな環境に恵まれている。	
14	18	○活動意欲を触発する物品の用意 利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品を用意し、本人の経験や状況に応じて提供している。(ほうき、たらい、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品等)		○		過去の思い出を蘇らせるビデオ(戦中・戦後の暮らし、蚕さん等)を放映している。昔ながらの杵を使ったお餅つき、洗濯板を使用する、エプロンを縫うなど暮らしの中で楽しく利用者の力が発揮できるよう職員がそっと手を差しのべている。	
③心身の状態に合わせた生活空間づくり 6項目中 計			6	0	0		

項目番号	項目		できて いる	要 改善	評価 不能	評価理由 (優れている点や改善すべき点等、評価の根拠)	改善方策等
	外部	自己					
		Ⅲ ケアサービス . ケアマネジメント					
15	20	○個別具体的な介護計画 アセスメントに基づいて、利用者主体の目標を立て、利用者一人ひとりの特徴を踏まえた具体的な介護計画を作成している。	○			傾聴・受容・共感を基本として利用者本人のニーズを引き出し、その人にあったケアにつとめる具体的な介護計画を作成している。	
16	21	○介護計画の職員間での共有 介護計画を、すべての職員の気づきや意見を採り入れて作っており、すべての職員が計画の内容を知ることができる仕組みを作っている。	○			代表者・管理者は、職員全員の意思や気づきを素直に取り入れ、試み、介護計画作成に役立て、日々のケアに活かしている。毎月25日を目安に2・3日にわけてカンファレンスを行ない、職員間の共有化を図っている。	
17	22	○介護計画への利用者・家族等の意見の反映 介護計画を、利用者や家族等とも相談しながら作成している。		○		ホームとして介護計画作成には、利用者や家族等と協働することを前提に考えているため、訪問の少ない家族の相談や説明不足に対する取り組みに悩んでいる。	今後、家族への電話や郵送による連絡を検討している。より利用者・家族等の意見が反映されることを期待したい。
18	23	○介護計画の見直し 介護計画に実施期間を明示して、その期間が終了する際に見直しを行うことはもとより、状態変化に応じた随時の見直しを行っている。	○			基本的に、見直しは、3か月に1回実施している。問題が発生した場合は、その都度見直しを行っている。見直しの日付はもちろん、内容についても具体的な記録が残されている。	
19	24	○個別の記録 日々の介護や介護計画に反映させるため、利用者一人ひとりの特徴や変化を具体的に記録している。		○		個別記録を行う時間(13:00～13:30の間とか)を決めている。誰が読んでもよく分かるような表現力になることを代表者と管理者は期待している。	日常会話・表情・状態が分かりやすく記録できるよう研鑽することを期待する。介護計画のコピーを個人記録の冒頭にファイルする等の工夫が望まれる。
20	25	○確実な申し送り・情報伝達 職員の申し送りや情報伝達を確実にを行い、重要な点はすべての職員に伝わる仕組みを作っている。	○			申し送りは、毎朝・夕に行われ、確認した職員はサインをしている。夜間担当者が不安になることがないよう確実に申し送られている。	
21	26	○チームケアのための会議 チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、すべての職員で、定期的に(緊急案件がある場合にはその都度)会議を開催し、活発に意見交換を行って合意を図っている。	○			全員参加型の職員会議は不可能なため、毎月25日をめやすに2・3日にわけてカンファレンスを開き、情報や気づきを活発に出し合い、皆で協議・育てていく会議にしている。	
④ケアマネジメント 7項目中 計			5	2	0		

項目番号	項目	できて いる	要 改善	評価 不能	評価理由 (優れている点や改善すべき点等、評価の根拠)	改善方策等
	2. ホーム内でのくらしの支援(1)介護の基本の実行					
22	27	○			利用者が今一番してほしいと思っていることを常に観察し、キャッチして介護に活かしている。視線を同じにし、さりげない声かけや寄り添いがいろいろな場面でみられた。車いすの方が、少し退屈気味になった時、職員が室内を散策してあげると、本人が唄いはじめ、他の利用者も一緒に口ずさみ、和やかで微笑ましい一場面に出逢えた。	
23	28	○			気長く・ゆっくり・ゆったりして和やかな雰囲気が漂っている。利用者の表情が明るく穏やかである。方言が使われる利用者には方言で対応している。	
24	30		○		代表者・管理者は、利用者本人のこれまでの生活歴に関する情報を家族から教えてほしいと思い、繰り返し機会をつくっている。しかし、独居生活の長い利用者も多く、なかなか把握が困難である。	その人らしい暮らしの援助のためにも、今後、家族の許可を得ながら本人の昔を知っている友人や親類の方にも働きかけることが望まれる。入居時の聞き取り調査の見直しにより、生活歴がより深く分かるようになることを期待したい。
25	32	○			職員は、いろいろな業務をこなしながら、絶えず利用者を見守り声掛け、観察している。利用者一人ひとりのペースは守られている。	
26	33	○			一人ひとりの意見に対し職員は常に傾聴する姿勢を忘れず、意思表示の難しい利用者に対しては、表情や態度から読みとっている。選択できる声かけや場面づくりに取り組んでいる。	
27	35	○			できるまで気長く待ち、できたら一緒に喜び、感謝の言葉を掛けている。残存能力が発揮できるように努め、次のステップへの自信につながるようサポートしている。	
28	37	○			身体拘束は全く見られない。	
29	38	○			玄関の鍵は、防犯のために夜間のみ掛けている。昼間は、自由に出入りできる。来訪者がわかるようセンサー(チャイム)をつけている。2ユニットの見守りがしやすい設計になっている。利用者は、室内で十分心地よく、楽しく過ごすことができています。	
⑤介護の基本の実行 8項目中 計		7	1	0		

項目番号		項目	できて いる	要 改善	評価 不能	評価理由 (優れている点や改善すべき点等、評価の根拠)	改善方策等
外部	自己						
		(2)日常生活行為の支援 1) 食事					
30	43	○馴染みの食器の使用 家庭的な食器を使っており、茶碗や湯呑み、箸等は、利用者一人ひとりが使い慣れたものになっている。	○			「食後のコーヒーは、自分で作った手作りのコーヒーカップで飲みたい。」という利用者の希望が叶い、砥部焼のコーヒーカップにし、続いてお茶碗やお皿にも絵付けをしていた。一人ひとりにとっては宝物になっている。	
31	44	○利用者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫 利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。	○			毎回食前に嚥下体操をしている。代表者は魚市場を経営しており、いつも新鮮な食材に恵まれている。野菜もふんだんに盛り込まれ、手間を掛けた薄味で美しい献立に工夫されている。切り方や健康状態にも配慮されている。	
32	45	○個別の栄養摂取状況の把握 利用者一人ひとりの摂取カロリーや水分摂取量、栄養バランスを、一日全体を通じておおよそ把握している。	○			一日の摂取エネルギーは1600kcalを目安にしている。一人ひとりの残食量・水分量はチェック表に細かく記録されている。栄養摂取量の偏りがあらわれた時は、医師と相談しながら、補助食品を利用している。	
33	47	○食事を楽しむことのできる支援 職員も利用者と同じ食事を一緒に楽しんで食べながら、食べ方の混乱や食べこぼし等に対するサポートをさりげなく行っている。	○			職員も一緒に食事することで、和やかな雰囲気が保たれている。サポートの必要な利用者にはさりげなくサポートしている。全体の気配りも忘れないで、食後の食べこぼしのサポートは自然にされている。	
		2) 排泄					
34	48	○排泄パターンに応じた個別の排泄支援 おむつをできる限り使用しないで済むように、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	○			生活リズム・パターンシート・健康チェック表に排泄チェックが記録されている。排便のチェックは時に困難なことがある。	
35	50	○排泄時の不安や羞恥心等への配慮 排泄の誘導・介助や確認、失禁の対応は、不安や羞恥心、プライバシーに配慮して行っている。	○			排泄パターンを把握し、そつとさりげなく誘導している。失禁時は、他の利用者が気付かないよう配慮している。	
		3) 入浴					
36	53	○利用者一人ひとりの希望にあわせた入浴支援 利用者一人ひとりの希望にあわせ、くつろいだ入浴ができるように支援している。(時間帯、長さ、回数等)	○			代表者や管理者は、利用者の希望に沿いたいいつも思っている。仲の良い利用者同志の入浴も可能にしている。職員のローテーションにより、夕方の入浴が困難な面がある。入浴のチェックも細かく記録されている。	夜勤職員の人数を増やしたいと考え、求人募集中である。できる限り利用者の希望に添うよう調整・支援することが望まれる。
		4) 整容					
37	56	○理美容院の利用支援 利用者一人ひとりの希望にあわせて、理美容院の利用を支援している。(カット、パーマ、染め、セット等)	○			家族と共に3か月に1回のペースで行きつけの美容院に行く利用者がいる。カットボランティアの受入れも行っている。カットの月日は健康チェック表にきちんと記録されている。	

項目番号		項目	できて いる	要 改善	評価 不能	評価理由 (優れている点や改善すべき点等、評価の根拠)	改善方策等
外部	自己						
38	57	○プライドを大切にした整容の支援 整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○			髪型・着衣の乱れはなく、職員のさりげない対応ができています。食べこぼしがあっても人前ではそのまま見守り、周りに気付かれないようさりげなくカバーしている。	
		5) 睡眠・休息					
39	60	○安眠の支援 利用者一人ひとりの睡眠の 패턴を把握し、夜眠れない利用者には、1日の生活リズムづくりを通じた安眠策を取っている。	○			一人ひとりの睡眠の 패턴はチェック表に記録されている。「明日〇〇するよ」と予告し、興奮し不眠になり困ったことがあった。眠れない利用者には、ホットミルクを入れて会話することで安眠策としている。薬に頼っていない。	
⑥日常生活行為の支援 10項目中 計			9	1	0		
		(3)生活支援					
40	64	○金銭管理の支援 利用者が自分でお金を持つことの大切さを職員が分かっており、日常の金銭管理を本人が行えるよう、利用者一人ひとりの希望や力量に応じて支援している。	○			お金の管理ができる人はいないが、買い物時には、一人ひとりが財布を持ち、本人が支払えるようサポートしている。	
		(4)ホーム内生活拡充支援					
41	66	○ホーム内の役割・楽しみごとの支援 ホーム内で利用者一人ひとりが楽しみごとや出番を見い出せるよう、場面づくり等の支援を行っている。(テレビ番組、週刊誌、園芸、食器洗い、掃除、洗濯物たたみ、小動物の世話、新聞取り等)	○			毎日の世話役(当番)が決まっており、カレンダーめぐりやみんなの前であいさつしたり、障害のレベルが進んでも役割・出番の場面をつくっている。日常生活での役割(食器拭き・野菜切り・洗濯干し)を楽しんで行っている。	
⑦生活支援 2項目中 計			2	0	0		
		(5)医療機関の受診等の支援					
42	68	○医療関係者への相談 心身の変化や異常発生時に、気軽に相談できる医療関係者を確保している。(医師、歯科医師、保健婦、看護婦等)	○			24時間対応可能な体制で連携がとれている。	
43	73	○早期退院に向けた医療機関との連携 入院した場合、早期退院のための話しあいや協力を医療機関と行っている。	○			利用者が入院すると、定期的に出向き、医療機関からの情報や家族との話し合いを行っている。良い状態になるよう働きかけを行っている。	
44	74	○定期健康診断の支援 年に最低1回は、健康診断や医師の指導を受けられるように支援している。開設間もないホームは、健康診断を受けられる準備や体制を整えている。	○			市の健診・ガン検診は、ホームとしては行っていない。血液検査と健康チェックは、6か月に1回行う体制がある。結果は、ホームでも管理され家族にも報告している。	

項目番号		項 目	でき ている	要 改善	評 価 不 能	評価理由 (優れている点や改善すべき点等、評価の根拠)	改善方策等
外部	自己						
		(6)心身の機能回復に向けた支援					
45	76	○身体機能の維持 認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下、平衡感覚の悪化、嚥下機能の低下等)を理解し、買い物や散歩、調理、楽しみごと等の日常生活の中で自然に維持・向上するように取り組んでいる。	○			ホームに広場があり、運動会・餅つき・バーベキュー等が催されている。気分転換におやつを“あんど公園”で食べるなど、楽しみごとや行事の中で身体機能の維持向上に取り組んでいる。	
		(7)利用者同士の交流支援					
46	78	○トラブルへの対応 職員は、利用者同士のけんかやトラブルの原因を把握し、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○			大きいトラブルはなく、利用者同志で解決できることがほとんどである。トラブルについては、前向きにみんなで考え、利用者が不安にならないよう努力している。食事の時の席順についても配慮している。	
		(8)健康管理					
47	80	○口腔内の清潔保持 利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○			口腔ケアは、食後の声かけや誘導で個別に行っている。週に一回ポリデントで入れ歯の手入れもされている。	
48	83	○服薬の支援 職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量を承知しており、利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、症状の変化を確認している。	○			薬管理表で、作用や副作用について理解している。一人ひとりの薬について変更があった場合は、口頭と申し送りノートで正確に全職員が把握できるシステムになっている。	
49	85	○緊急時の手当 利用者のけが等の緊急時に、職員は応急手当を行うことができる。(けが、骨折、発作、のど詰まり等)		○		代表者は、救急法救急員認定証を持っている。7月そして秋には、講習会を検討している。緊急時マニュアルや連絡網を作成している。	職員全体レベルの学習や訓練の機会を設けることが望まれる。
50	86	○感染症対策 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA等)		○		感染症マニュアルを作成している。職員は実行可能で具体的・基本的(うがい・手洗いなど)な予防策の徹底が望まれる。	今までに起きた感染症(インフルエンザ)の情報ファイル作成をすることが望まれる。
⑧医療・健康支援 9項目中 計			7	2	0		
		3. 利用者の地域での生活の支援					
51	90	○ホームに閉じこもらない生活の支援 利用者が、ホームの中だけで過ごさずに、積極的に近所に出かけて楽しめるような雰囲気を作っている。(買い物、散歩、近隣訪問、集会参加等)	○			広いウッドデッキから一歩外に出ると広場があり、天気の良い日には、散歩もできる。利用者が主体的に出かけることのできる行事や場面設定も積極的に行ない、利用者には喜ばれている。	
⑨地域生活 1項目中 計			1	0	0		

項目番号		項目	できて いる	要 改善	評価 不能	評価理由 (優れている点や改善すべき点等、評価の根拠)	改善方策等
外部	自己						
		4. 利用者と家族との交流支援					
52	94	○家族の訪問支援 家族が気軽に訪問でき、訪問時は居心地よく過ごせるような雰囲気を作っている。(来やすい雰囲気、歓迎、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○			ホームは家族の訪問を快く受入れている。気安く安心できる雰囲気を作っている。ターミナルの利用者の家族には、ゆっくり過せる配慮・支援をしていた。	
⑩家族との交流支援 1項目中 計			1	0	0		
		IV 運営体制 1. 事業の統合性					
53	96	○責任者の協働 法人代表者及び管理者は、ケアサービスの質の向上に熱意を持ち、それぞれの権限や責任をふまえて、共に取り組んでいる。	○			代表者と管理者との連携が十分とれており、ケアサービスの質の確保を最優先する姿勢を持ち、質の向上に対する熱意が伝わってくる。	
54	97	○職員の意見の反映 介護従業者の採用、運営方法、利用者の受入れや入居継続の可否については、職員の意見を聞いている。	○			職員の意思や考え方も取り入れながら、介護従業者の採用や利用者の体験入居による受入れも決定している。職員が自由に意見がだせる雰囲気が作られている。	
55	101	○成年後見制度等の活用推進 利用(予定)者やその家族による、成年後見制度や地域福祉権利擁護事業の活用を推進している(制度概要等の説明、申立手続に関する専門機関や相談窓口の紹介等)。また、専門機関等は認知症高齢者の特性やグループホームをよく知っており、利用者や家族等並びにホームを支えていく協力体制が確保されている。		○		代表者や管理者、職員は制度について概略は知っている。	ホーム全体そして家族とともに今後学習・熟知されることが望まれる。
		2. 職員の確保・育成					
56	102	○利用者の状態に応じた職員の確保 利用者の状態や生活の流れを支援するために、これに即した職員の勤務ローテーションを組んでいる。	○			管理者を日勤ローテーションに組み入れ、人員配置にゆとりを持たせている。夜間はスタッパー人体制にしているが、緊急時は管理者が対応する仕組みになっている。ホーム側としては、夜勤を二人制にすることを考え、現在、求人募集中である。	
57	104	○継続的な研修の受講 職員が、採用時、フォローアップ等それぞれの段階に応じた研修を受講し、その内容をすべての職員に周知している。		○		ホーム内の研修として8月にスーパーバイザーを迎える予定にしている。ホーム外の研修は今後の課題になっている。	今後、職員の経験や力量に応じて必要な研修が受けられるよう期待したい。
58	106	○ストレスの解消策の実施 職員の業務上の悩みやストレスを解消する方策を採り入れている。(外部者と接する機会、職員相互の親睦、悩みの聴取、スーパーバイザーの導入等)	○			ストレスにかかりやすい仕事であることを代表者や管理者が理解し、日常的にストレスを緩和する取り組みをしている。食事会や親睦会など気晴らしの機会を作っている。スーパーバイザーにも相談している。	職員が他のグループホーム職員と接する機会を作ることを望む。

項目番号		項目	できて いる	要 改善	評価 不能	評価理由 (優れている点や改善すべき点等、評価の根拠)	改善方策等
外部	自己						
		3. 入居時及び退居時の対応方針					
59	108	○利用者の決定のための検討 グループホームに適した入居対象者であるか、十分に検討している。(介護保険被保険者証、診断書、入居申請に至る経過、生活や対人関係、利用者・家族の希望等)	○			職員が入居予定者に会いに行ったり、ホームで過してもらったり、2泊程度の入居体験をしてもらったりして、入居可能かどうか確認している。職員からの意見も大きなポイントになっている。	
60	110	○退居の支援 退居は、契約に基づくとともにその決定過程が明確である。また、利用者や家族等に十分な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○			ホームとして独自の支援センターはもっていない。ケアマネージャーに相談したり、家族には十分な説明や話し合いを重ね、納得のいく転居先に移れるよう支援している。	
		4. 衛生・安全管理					
61	113	○ホーム内の衛生管理 ホーム内の清潔や衛生を保持している。(食品、布巾、包丁、まな板、冷蔵庫、洗濯機等)	○			布巾やまな板等は毎回使用後殺菌消毒を行ない、衛生管理には注意をはらっている。食材の管理は冷蔵保存と常温保存に区別され、適切に行われている。	
62	115	○注意の必要な物品の保管・管理 薬や洗剤、刃物等の注意の必要な物品については、保管場所、管理方法等を明確に取り決め、かつ、そのとおりに実行している。	○			刃物は、専用の収納場所に保存され、ロックできしっかり管理されている。薬剤は厳重に保管している。	
63	117	○事故の報告書と活用 けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態が発生した場合、事故報告をまとめており、サービスの改善につなげている。(再発防止の話しあい、今後活かす意義づけ等)	○			ヒヤリハット報告書の内容・今後の対策は、細かく分かりやすいように記入できる様式になっている。利用者のみでなく、介護する職員本人の事故発生についても記録できるようになっている。	
⑩内部の運営体制 11項目中 計			9	2	0		
		5. 情報の開示・提供					
64	119	○調査等の訪問に対する対応 介護相談員や評価調査員等の訪問時には、情報を積極的に提供している。	○			ホームとして訪問調査の意義を理解した上で、サービス改善にむけて正直に正確・積極的に情報提供している。	
		6. 相談・苦情への対応					
65	120	○相談・苦情受付の明示 相談や苦情を受け入れるホーム側の窓口及び職員が明確であり、利用者及び家族等にその利用の仕方を文書と口頭で繰り返し伝えている。	○			重要説明書に、苦情申し立ての項目があり、受付や対応を明確にしている。玄関入口左には、苦情箱を設置している。	
⑪情報・相談・苦情 2項目中 計			2	0	0		

項目番号		項目	できて いる	要 改善	評価 不能	評価理由 (優れている点や改善すべき点等、評価の根拠)	改善方策等
外部	自己						
7. ホームと家族との交流							
66	123	○家族の意見や要望を引き出す働きかけ 家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、面会時の声かけ、定期的連絡等を積極的に 行っている。	○			家族会を平成16年11月に立ち上げ、集まりの場では、ざっくばらんに意見の交流が図れるよう工夫している。家族が訪問の際には、心身の状況や日頃の生活ぶりを詳しく伝え、希望を出してもらっている。	
67	124	○家族への日常の様子に関する情報提供 家族に、利用者の暮らしぶりや日常の様子を定期的、具体的に伝えている。「たより」の発行や行事ビデオの上映、写真の送付等	○			プライバシーに配慮しながら写真入の微笑ましい内容の「ホームだより」を作成し、生活ぶりを家族に伝え、家族の気づきや声が出ればと取り組んでいる。	
68	127	○利用者の金銭管理 利用者が金銭の管理ができない場合には、その代替方法を家族等と相談の上定めており、利用者側に定期的にその出納を明らかにしている。	○			金銭出納帳で管理している。金銭は代替方式をとり、後日、領収書と共に書面で報告している。	
⑬ホームと家族との交流 3項目中 計			3	0	0		
8. ホームと地域との交流							
69	128	○市町村との関わり 市町村との連絡を密にとり、家族介護教室等の市町村事業を積極的に受託している。		○		合併後は、3か月に1回、東予市とかかわりがあった。合併後は、4月の予定が今だ延期となっている。	
70	131	○地域の人達との交流の促進 地域の人達が、遊びに来たり立ち寄ってくれたりするよう取り組んでいる。		○		代表者や管理者は地域と関わっていきたく願っている。自治会に入ることも検討中である。地元の中学生や高校生と食事したり楽しんだりすることはある。	"あんど公園" が7月1日にオープンした。今後の展開が期待される。
71	133	○周辺施設等の理解・協力への働きかけ 利用者の生活の安定や拡がりのために、周辺地域の諸施設から協力を得ることができるよう、理解を拡げる働きかけを行っている。(商店、福祉施設、警察、消防、文化教育施設等)	○			地道に少しずつではあるが、周辺地域の諸施設へ働きかけたり、"あんどだより" を配布したり、理解を得られるよう取り組んでいる。以前に比べ顔なじみが増え、連携の輪が広がりつつある。	
72	134	○ホーム機能の地域への還元 ホームの機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している。(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受入れ等)		○		ホームとしては、地域に開放することや、啓発の場に積極的に出ていき、ホームの成果や認知症のケアサービスの推進に還元していきたいと考えている。中学進路学習の講演に出むいたことはある。	還元できる具体的な方法について、職員間で協議し参画することが望まれる。
⑭ホームと地域との交流 4項目中 計			1	3	0		
Ⅴ その他 1. その他							
73	144	○火災・地震等の災害への対応 利用者や施設の状況を考慮に入れ、夜間も念頭においた防火対策を講じている。(災害発生時の職員、家族、その他関係機関(母体法人等)との連絡体制の確保、防災応援協定など地域との連携体制の確保、これらの連絡・連携体制を踏まえた災害に対応するための手引書等の作成、避難・誘導等定期的な訓練の実施等)		○		緊急連絡網の作成を検討している。防火対策はまだ不十分である。ホーム側として夜間のローテーションに不安がある。	秋にはホーム全員で消防訓練を予定している。地域との関係をより一層密にし、協力を得られるよう努力することが望まれる。災害時の手引き書作成は早急に取り組むことが求められる。
⑮その他 1項目中 計			0	1	0		